

中規模噴火

降灰・噴石・土石流・火砕流・溶岩流などが発生します。

中規模噴火は、1773年（江戸時代）に起こりました。焼山は1773年の噴火のときに火砕流（大谷火砕流Ⅱ）を発生させました。

この噴火では、火砕流は数回発生し、音坂地区にまで達しました。また、山頂より南側の妙高高原町の方角にも火砕流が流れてきたといわれています。

今回お配りした「新潟焼山火山防災マップ（平成16年）」では、この1773年の噴火と同じ規模の噴火が起こった場合を想定しています。



1773年の噴火で発生した
大谷火砕流Ⅱの範囲